

二国間交流事業 共同研究報告書

令和5年4月11日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
神戸大学・大学院人文学研究科
[職・氏名]
教授・岸本秀樹
[課題番号]
JPJSBP 120203802

1. 事業名 相手国: ハンガリー (振興会対応機関: HAS) との共同研究

2. 研究課題名

(和文) 2次叙述に関する文法制限の研究

(英文) An Investigation of grammatical restrictions on secondary predication

3. 共同研究実施期間 令和2年4月1日～令和5年3月31日(3年0ヶ月)【延長前】 令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年0ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Hungarian Research Centre for Linguistics・Research Professor・den Dikken, Marcel

5. 委託費総額(返還額を除く)

本事業により執行した委託費総額		4,750,001 円
内訳	1年度目執行経費	2,375,001 円
	2年度目執行経費	2,375,000 円
	3年度目執行経費	0 円

6. 共同研究実施期間を通じた参加者数(代表者を含む)

日本側参加者等	3名
相手国側参加者等	2名

* 参加者リスト(様式 B1(1))に表示される合計数を転記してください(途中で不参加となった方も含め、全ての期間で参加した通算の参加者数となります)。

7. 派遣・受入実績

	派遣		受入
	相手国	第三国	
1年度目			()
2年度目			()
3年度目	2	1	2(2)

* 派遣・受入実績(様式 B1(3))に表示される合計数を転記してください。

派遣: 委託費を使用した日本側参加者等の相手国及び相手国以外への渡航実績(延べ人数)。

受入: 相手国側参加者等の来日実績(延べ人数)。カッコ内は委託費で滞在費等を負担した内数。

8. 研究交流の概要・成果等

(1)研究交流概要(全期間を通じた研究交流の目的・実施状況)

交流開始当初から計画していた研究交流および本研究課題については、2年半の間、新型コロナの影響で対面実施できなかった。ただし、研究連絡・打ち合わせについては、可能なところはオンラインで行った。対面の交流は、最後の半年で集中的に実施した。2次述語関係の他の研究者との意見交換をする国際研究集会(ワークショップ)は、オンラインとハイブリッド形式で実施することができた。

(2)学術的価値(本研究交流により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

研究交流により、2次叙述に関する新たな知見が得られた。研究交流で得られた研究結果、及び、国際研究集会の成果を集成した研究書として、den Dikken 教授と岸本の共同編集による2次述語の論文集が De Gruyter Mouton から公刊される予定になっている。

(3)相手国との交流(両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果)

研究交流の成果の1つとして、川嶋、岸本、den Dikken 教授・Dékány 博士の共著論文が公刊される予定である。研究集会の会議録、また、前述の den Dikken 教授と岸本の共同編集による2次述語の論文集もその成果である。

(4)社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

研究で得られた新たな知見は、言語学の理論研究に寄与するものであるが、川嶋の専門である5文型の研究とともに英語教育に応用することで、英語教育の質の改善等に寄与する知見の社会的な貢献も行えたものと考えている。

(5)若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

若手養成のために参加した森山は、ワークショップなどを通じて、他の研究者との交流を行い、自身の研究テーマに関する意見をする機会を得た。森山は、この経験を活かし、さまざまな機会をとらえて、自身のテーマの研究発表をしている。

(6)将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本課題の2次叙述は理論的研究の発展が望めるものであり、枠組みを叙述一般、さらには修飾関係も視野に入れた取り組みを行うことで、さらなる研究の進展が望める。そのため、本課題の研究をさらに発展的に続けていく計画を検討している。

(7)その他(上記(2)～(6)以外に得られた成果があれば記載してください)

例:大学間協定の締結、他事業への展開、受賞など

特になし